

科目 病理学実習 (Practice in Pathology)

担当教員 蛭田 啓之

【1】 授業の目的と学習成果〔教育目標・具体的な項目〕

病理学的診断は肉眼的・組織学的および細胞学的所見を統合した形で下される。これら三者間に優先性はないが、それぞれが個々の特徴を十分に活かし得る標本でなければならない。本実習では針吸引、生検、手術あるいは解剖などで得られた人体材料を用いて、肉眼的・組織学的および細胞学的レベルから観察・スケッチを行い、正常組織との比較、病的組織の診断、特殊染料の意義などを学ぶ。実際に標本作成を行い、作成技術、染色理論、染色結果などを学ぶ。また、これらの実習を通じ、標本作成の意義と重要性、診断のプロセス、臨床検査技師の役割と責任などを学ぶ

<教育目標>

- (1) 十分な知識・技能と、科学的な探究心・思考力・批判力をもつ
- (2) 自ら主体的に学ぶ力をもつ

<具体的な項目>

専門分野における十分な基礎知識・基本技能 (1)
 関連する分野における概括的な基礎知識・基本技能 (1)
 根拠に基づいて科学的な推論を行い、結論を導く能力 (1)
 根拠を求めて、科学的な手法で実験・実証を計画・実行する能力 (1)
 常に問題を科学的に分析・解釈しようとし、そのための科学的探究を試みる態度 (1)

【2】 授業計画

No.	内 容
1	パラフィンブロック薄切 (肝、腎、腸管)
2	染色 I (Hematoxylin Eosin, PAS) (固定、包埋、脱灰)
3	染色 II (Elastica Van Gieson, Azan Mallory) (固定、包埋、脱灰)
4	腫瘍性および非腫瘍性病変の顕微鏡観察 (1)
5	腫瘍性および非腫瘍性病変の顕微鏡観察 (2)
6	腫瘍性および非腫瘍性病変の顕微鏡観察 (3)
7	腫瘍性および非腫瘍性病変の顕微鏡観察 (4)
8	細胞診標本の作製 (1)
9	細胞診標本の作製 (2)
10	細胞診標本の作製 (3)
11	細胞診標本の作製 (4)
12	細胞診、陽性標本の顕微鏡観察
13	特殊染色・免疫染色標本の顕微鏡的観察 (I)
14	特殊染色・免疫染色標本の顕微鏡的観察 (II)
15	特殊染色・免疫染色標本の顕微鏡的観察 (III)

【3】 到達目標

病理標本を作製することができる。病変部位を見つけることができる。病理標本を観察して悪性部位を見つけ説明することができる。

【4】 授業概要

人体の剖検材料や手術材料、生検材料や細胞診材料などのプレパラートを顕微鏡下に観察し、正常状態と病的状態の比較をしながら病的状態の診断を行い、スケッチブックにスケッチする。スケッチには説明も加える。

【5】 準備学習 (予習・復習) および必要時間

3年次で既習の解剖学・解剖学実習について復習しておくことが予習 (毎回1時間) となる。国家試験問題に取り組むことで復習する。授業後、1時間の復習を行う。

【6】 教科書・参考書・参考資料

〔教科書〕 「病理学・病理検査学 臨床検査講座」 (松原修他著 医業出版)
 〔参考書〕 「染色法のすべて」 (医業出版)

【7】 評価方法およびフィードバック

標本スケッチ、レポート (100%) により評価する。また、受講態度も評価参考にする。標本スケッチ、レポートは評価・コメントを付し返却するので確認・復習すること。

【8】 オフィスアワー

授業の前後で質問等を受ける

【9】 関連科目

〔予め学んでおくとい科目〕

組織学 病理学

〔この科目に続く内容の科目〕

臨床病理学実習

【10】 その他

1. 臨床検査技師を目指す学生を対象とする
2. ノート、スケッチブック、色鉛筆などを持参すること